

## 府中市生涯学習審議会（平成24年度第7回）会議録

1 日 時 平成25年1月28日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中市生涯学習センター1階会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員13名

川内 清文、小林 清次郎、坂本 智子、澤井 幸子、設楽 厚子、  
芝 喜久子、鈴木 映子、田野倉 晴美、寺谷 弘壬、戸島 忠彦、  
比留間 一磨、三宅 昭、山内 啓司

（2）職員3名

町田文化スポーツ部次長、茂木生涯学習推進担当副主幹、大木

4 開会

（1）会長あいさつ

（2）次長あいさつ

5 連絡・報告事項

（1）配布資料の確認

（2）報告事項

①東京都市町村社会教育委員連絡協議会 交流大会の報告

平成24年12月1日（土）稲城市

参加者：芝会長、三宅副会長、小林（清）委員、澤井委員、設楽委員、  
戸島委員、山内委員

■ 交流大会はブロックからの報告と慶應義塾大学文学部教授の渡辺秀樹氏より「現代型家族の問題点について～社会教育が地域のためにできること」について講演いただいた。

■ 府中市の報告が一番まとまっていて分かりやすかったと思う。他のブロックの報告も参考になるようなものだと思うが、散漫としていて分からない部分があった。第2ブロックの報告の中で、大学の先生の講演「学校支援の方策について」で、学校内にボランティアルームを設置して活動、第3ブロックの社会教育委員個人が地域の新聞づくり、第4ブロックの体験型プログラムの開発と普及活動の実践——の3点について、具体的な中身を知りたかった。が、質疑応答の時間が短くて聞けず、残念だった。また、レジュメには出席者名やキーワードが書いてあるだけだったので、文章作りは大事だと思った。それから後になって聞きたい事例、参考にしたい事例などあるので、まとめたものを作ってもらいたいと思った。

- 今いただいたご意見は理事会に持っていきたいと思う。
- あまり印象に残ったものが無く、いかにもセレモニーで終わってしまったという感じがした。色々と報告の準備をされていたと思うが、発表の時間が少なかったので、あっさりした報告になってしまった。行く前には、社会教育委員としてのあり方等の話を聞けるものと思って期待していた。ひとつ気が付いたのは、表彰式で代表して賞状を受け取る役割の方が急遽、欠席になってしまったので、その表彰を省略するということであった。このやり方は非常に失礼だと思った。受け取る予定だった方が欠席の場合は、同表彰を受ける別の人に頼んでもいいと思う。府中市でこのような式典をやるときは気を付けなければならないと思った。
- 出席させていただき表彰状をいただきありがとうございます。表彰については、もう少し厳粛な気持ちで差し上げたり、頂いたりしなければと感じた。それぞれのブロック発表は、地域の特色があって良かったと思う。第5ブロックの報告は分かりやすく、皆様も感心していた。各ブロックへの質問の時間があると良いと思った。各市の色々な活動を聞かせていただき参考になった。
- 基本的には、第5ブロックの報告は分かりやすく、とても良かったと思う。他のところは、まとめ方をもう少し考えなければならない。同じことをやっても、あのような発表の仕方では誰も聞いてくれない。せっかくここまでやってきたのだから、発表の仕方をもっと考えて、自分たちの意思を上手にまとめていただければ出席した方々も良かったと言って帰られると思う。
- まとめ方の良し悪しがでてきていて、私たちが知っているからか府中が一番良かったと思う。
- 第5ブロックの研修会が充実していたので、良い報告ができたのだと思う。

## ②東京都市町村社会教育委員連絡協議会 拡大役員会の報告

平成25年1月24日（木）稲城市

- 都市社連協で問題になっていた規約改正の件について、今年度は第2条の部分だけを改正させていただくということで会長市から話しがあった。「社会教育委員」を「会員」という言葉に置き換え、それに併せて第3条と第4条が動いてくることになる。その他の項目に関しては、今期は時間がないので第2条の改正のみに了解いただきたいとのことだったので、報告させていただいた。

平成25年度は羽村市が会長市になる。羽村市で、次年度の計画をしていただくことになるが、次年度のテーマ（案）は「我がまち意識」を次代に育む社会教育」とのことだった。来年度は4月20日に総会があるのでお願いしたい。

## 6 審議事項

### (1) 前回の議事録の確認について

各委員に校正を依頼した会議録（案）は、一部校正後、市民に公開することが了承された。

### (2) 答申案の検討について

以下のとおり意見交換が行われた。

〔意見の趣旨〕            ■：委員      ➡：事務局

- 府中市教育委員会からの諮問で「学び返し」を通じた地域教育力の向上を基本理念として市民が主役の生涯学習を進めていくという中で、「府中市の生涯学習における市民と行政の協働について」の答申作成を進めてきた。皆様の意見を短い時間で小委員会の方々にご協力いただき、答申案を出すことにしたが、まとめる時間があまりなく、ほとんど小林委員にお願いしてまとめていただいた。最後にまとめたものを小委員会で確認作業をしたが、皆様に読んでいただき内容等を精査していただければと思う。
- まず「はじめに」という文字の中身から、こういう形の表現で良いのか確認からしていただいた方が良いと思う。この答申の仕方でよろしいか。
- 答申の仕方について、「はじめに」、「1～5項目」、「まとめ」という形でよろしいか。後は内容の確認をしたい。

（「はじめに」読み上げ）

- 最初の3行の文言はなくても良いのではないか。その他の部分は小林委員にしっかり検討していただいて、良いものになっている。あとは表紙の中に入れてはどうか。
- 或いは、「はじめに」に入れてはどうか。「貴職」という部分は削除しても良いと思う。「～重ねて来た。」で切ってしまってもどうか。
- ➡ ご提案ですが、前回は答申書に加えて、答申書を提出する趣旨の資料を1枚、別に設けていた。もし最初の3行を残すのであれば、この1枚の紙の中で説明することも可能かと思う。
- その方がすっきりするかもしれない。
- 諮問を受けて答申するということがどこかに入れるのか。2年間審議をしてきた

ということは、どこかに表記するべきだと思う。

- 答申書の作り方の問題で、一通りで答申書として渡すのであれば、このままで良いと思うが、別紙を付けるのであれば最初の3行はいらないと思う。「はじめに」の最後にこの内容を入れておけば別紙は必要ない。
  - どこかに、こういう諮問を受けて答申したという表現を文章として本文の中に入れておかないとおかしいと思う。最後の部分でも良いと思う。
  - 本文の最後にその内容を付けておけば、書き分ける必要はない。
  - それはそれとして、答申の文章として残るものなので、どういう諮問をして、どういう答申を出したかが分からないとおかしいと思う。入れ方はどこでも良いが、最初の方が良いと思う。
  - では最初の3行は「はじめに」に入れ込んではいかがか。
  - もしくは最初の3行を「はじめに」の最後に付けても良いと思う。
- 4行目「これまでの」を「第2次府中市」にした方が良いのではないか。

(一同了承)

- 「得られた知識」は「学び合い、教え合い」で得られたことが分かるので、必要ではないと思う。
- 「得られた」という言葉が入ることによって、もう少し具体的な理解ができるという見方もあると思う。
- ➡ 推進計画の「学び返し」の定義をみると、「自ら学んだことや身につけた知識・技能」となっている。
- 「得られた」は「身につけた」に言い換えている。
- 第2次生涯学習推進計画の「学び返し」の定義である「自ら学んだことや身につけた知識」を入れておくか。
- 「市民が学び合い、教え合い、得られた知識」を「自ら学んだことや身につけた知識・技能」に替えて良いか。

(一同了承)

- 「学び返し」には鍵括弧を付ける。
- 「称して」を「提唱し」に替える。
- 「はじめに」の最後「～期待するものである。」の後ろに、「当審議会は、平成2

3年5月30日「府中市の～」と続け、「に貴職より」は削除するということが良いか。

- 初めは最後に「当審議会は～」としていたが、最後を「期待する」で終わらせると、ほぼ結論に達したという印象になるで、その後に「当審議会は～」と続けてしまうと、どうも繋がりが悪い気がした。スタイルにこだわらなければ、一行あけて「当審議会は～」にするとあまり違和感はないと思う。

(一同了承)

(3、4ページ目 読み上げ)

- 検討した形でまとめていただいたが、一文が長いので、句読点をもう少し入れていただきたい。市がすでにやっている項目は検討する必要があると思う。
- (2) ①「市内における公共施設の市民への開放について検討する」の「公共施設」とは何を指すのか。
- まだまだ市民が利用できない、敷居が高い施設があるのではないかと。施設を利用できるということの情報が市民に知れ渡っていないので、使えるにも拘わらず使われていないというようなことで、公共施設が十分に活用されていないところがあるのではないかと。そういうところを精査して市民が利用できる施設があるのであれば、一般市民にもっと積極的に広報等をしてほしいという前提で書いた。言葉が足りないで、理解しにくいかもしれない。
- 「検討する」を「情報提供」にしてはいかがか。
- ルールがあって使えないのか、情報が伝わってなくて使えないのか分からない。開放するために積極的な意識があるのであれば、情報提供するなど発展してくると思うが、その状況が分からない。ただ使われていないのは、もったいない。
- 中央図書館は入って右側に椅子と机があるので勉強したりできるが、他の施設でもそういうことが可能ではないか。例えば郷土資料館に入って左側にそういうスペースがあるので、ただ椅子や新聞等をおけば人が集まれるのではないかと。そういうことも含めての表現になっている。
- 施設提供の意識というか、市の姿勢が曖昧で分からないというところがある。文化センターでも少し長く話しをしていると、もう出て行ってと言われる。本来は他人の迷惑にならなければ、自由に使って良い場所だが、長い時間使っていたり、騒いだから出ていけという言われ方をする施設もあるようなので、市としては開放するという意識があるのなら、そういうことはしないでほしい。
- 小委員会では、教育センターには専従の人がいるので、容易に使わしてくれない

という意見があったので、具体的に言わずに公共施設と表した。

- (2) ②に引っかかってくる。
- 最後から2行目の「気楽に集い、相談し」というところが、唐突な感じがする。「相談」というのは会議ということか。
- 要するに、たまり場というか、会合や色々な事ができる重要な拠点という意味である。
- 「相談」というと学校に相談に行くような感じがする。
- 「協議」「討議」の方が適切だったかもしれない。
- 「相談し」は削除しても意味は通じる。
- 実際に可能かどうか条件を作らなければならない。できるだけ、そういう方向に持っていく検討も必要ではないか、ということも含めている。
- 学校によっては母親たちがバレーボールや卓球等で利用している。
- 母親はPTAか。
- PTAだけではなくサークルもあると思う。コーラスでも音楽室を使って長年やっているところもある。
- 自分の子どもが通っていなくても使えるのか。
- だいたい子どもが通っている学校で活動している。あとは卒業生。
- 今回の小委員会では、親だけではなく市民に広げていく。
- やはり学校は子ども達の間ではある。下から2行目の「最適の」は削除して、「環境にもある」にしてはどうか。
- 「気楽に集い、相談し、楽しむ」を「学び合い、教え合う」に替えてしまえば、何でも含められる。少し固めの表現にした方が、単純明快になる。
- 包括した表現の方が良いと思う。
- 学校側からするとバレーボールのチーム等で父兄が参加しても怪我した場合はどうするか等、一筆入れて参加してもらっているが、違う学校の生徒まで入ってきて学校を使うのは大変なことだと思う。そういう方向にやってほしいが、実際に何か起こった時には大変なことになる。怪我でもしたらどこが責任をとるかということになる。あまり楽観的に書かない方が良いと思う。
- (2) ⑤の「仮称：学校～」は「委員会」の後ろに入れるか、そのまま入れるなら括弧をとって入れるかの方が良い。その前の句点は削除する。
- 「委員会（仮称：学校開放運営委員会など）」の方が良いと思う。

(一同了承)

- (1) ①2行目「組織的な力」の後ろに句点があったほうが良い。

(一同了承)

- 4ページ1行目の「検討してほしい」は「する必要がある」とどちらが良いか。
- 要望書ではないので、「検討してほしい」は適切な表現ではないかもしれない。
- 「検討する必要がある」で良いか。

(一同了承)

- (2) ④について、生涯学習を活発にしていくために必要だと思うが、ここまでやる必要はないのではないか。もちろん、「公共に活かす可能性について検討する」という良い意味での言葉はあるが、いかがか。
- 空き家は電気が切れていて電源が使えないかもしれない。大変難しいと思うが、使っている地域もあるようだ。使ってくださいという家もあると思う。
- 小委員会では、世田谷区の民間団体は空き家の所有者に呼びかけて、スペースとして色々な形で使うようにしている。どこに空き家があるか分からないので、その橋渡しとして行政に声掛けをしてもらう。全国的に商店街のシャッター街は行政が調べて、協働という意味で住民が集まりたいと思ったときにも使っている。空いている場所があれば利用・活用してもいいのではないか。  
所有権の問題でどうにもできないこともあるが、ゴミ捨て場のようにになっている空き家はそうなる前に行政がやれば出来ないこともないと思う。
- 府中で公共施設が足りているのかどうかの調査をしなければならないと思うが、こういうことができるということで謳っておいた方が良いのか。
- 窓口を行政と協働しながら、運営するのは地域の人で、地域の高齢者は遠い場所には行けないので、空き家を利用して会議等するのは良いと思う。維持管理費等は利用する人が払うが、持ち主との橋渡しを行政にしてほしい。
- そういう理由でということであれば残しておく。

(5ページ目 読み上げ)

- ③「隠れた能力発掘法講座」はこれから作るのか、今までもどこかで開催されていたものか。
- 「啓発的企画を検討する」なので、こういう発想で企画をして講座を開いてはど

うかという提案である。文化センター等には人材を発掘するためにチラシが置いてあり、自分の能力を申し出るシステムになっているが、そういう人を人前に引っ張り出して、自分の能力を活用してほしいと言えるような意識になる講座や学習会の企画を検討してほしい。チラシを置いて申し出てもらおう待ちの姿勢ではなく、一人一人の能力を発掘して、皆の前で活かせるような道筋を作ってあげるべきではないか。

- では、「検討する。」の後に括弧書きにした方が良いのではないかと。今の状態だと、この講座をやって欲しいという表現になってしまう。「市民活動を支援する者」「生涯学習を支援する者」の違いは何か。
- 「市民活動を支援する」は、市民活動の先頭に立って引っ張る者という意味である。本来は引っ張る者が発展させていくが、まだ小さな芽を押し上げるという力も必要だと思う。1人2人がどんなに立派な発想を持っていても活かす場がないという人たちのための講座を作った方がいいのではないかとということである。組織的に市民が動くのであれば大きな企画をたてればいい。1人2人が考えた小さな企画であってもそれが成長することによって、市民全体のやる気に結びつく活動の目的であれば積極的に支援する講座を作るべきだと思う。隠れた市民がどういう発想を持っていて、なぜ成長させられないかということを手助けすることが必要だと思う。
- 例として入れた方が良いか、削除して「呼びかけるためのイベント等、啓発的企画～」と収めるか。
- 意味が分かりづらいのであれば削除しても良い。人材発掘を広く市民に呼びかけるための企画だけでも意味は通じると思う。曖昧な事例がなくても良いが、具体的に提案するという意図で考えた。話し言葉で「隠れた能力を発揮するために市民が出やすい企画を考える」等を注意書きにした方が分かりやすいかもしれない。
- 「呼びかけるためのイベントや啓発的企画」として、その後ろに括弧書きで入れて、「を検討する」とするのはいかがか。今までのもので問題はないと思うが、生涯教育の対象者を高齢者だけを意図せずに、若い人も対象にしているのは意識をかなり強く持って「市民活動」にしたのだと思う。
- 括弧書きの中には最後に「等」も入れてよろしいか。
- 鍵括弧については後程、統一させていただく。

(一同了承)

(6～7ページ目 読み上げ)

- 先ほど表彰状で話しが出たが、(3)②「簡易な」、下から5行目「簡易な」は削



除した方が良いと思う。

- 7ページ1行目「目標であると感じさせるためにも」は、相手を感じれば良いのではないか。感じさせた方が良いのか。
- 「目標となるように修了を～」としてはいかがか。
- (2)①「市民活動を検証し」は、市民活動のどんなことを検証するのか。
- 今の市民団体がどのような動きをしているか知ることによって、団体の活用と連携の仕方が分かるという内容だった。
- 「市民活動」している団体はたくさんあるのか。
- NPOボランティアセンターに届け出ているだけでも1000団体以上ある。
- (1)⑥⑦は反対の意味のことを言っているのか。
- 曖昧な表現になっているが、⑥は子どもから高齢者まで含めて皆が参加できる企画で世代を越えた幅広い年代、⑦子どものためだけの講座、高齢者のためだけの講座というように、世代を分けた講座も必要だと思う。色々な対象を考えて企画をたてることで、多くの人を引っ張り出せるのではないか。生涯学習は高齢者のためだけのものではなく、子どもから高齢者まで全世代の学習なので、色々な対象を考えてやった方が良いと思う。
- 広報等を見ると、どちらかと言えば⑦の対象年代に限った講座の方が、多く行われていると思う。個人としては⑥の世代を越えてできる講座の方が、「学び返し」という意味では必要なのではないかと思った。実際に子どもや孫世代と関わる機会がほしいと思うことがよくある。
- 具体的項目として色々なものをあげている。
- 「市民活動」というと政治的な活動団体と捉えられるかもしれないので、自主グループ等としたら良いのではないか。
- 違う表現にしたい。
- 「市民活動」という言葉は色々なところに出てくるので、全部替えなければならない。
- 基本的には社会教育関係団体にすると体育もNPOも入ってくるのではないか。
- エジプトの記事で市民の活動家と出ている。政治的な感じがする。
- 社会教育関係団体だと絞られてしまう。
- 最初はそうしていたが、一部特定の団体に限られてしまうとのことで、「市民活動」として市民の組織を含めて広く解釈できるように書き換えた。市民の組織や団体の活動」とすれば柔らかくなって色々な意味合いが含まれてくると思う。「検証」も「確認」にすれば柔らかくなる。「現在の市民の組織や団体の活動を確認し」ではいかがか。

- もう少し簡単に「市民の諸活動」にしてはどうか。「諸」をいれることで、デモ等の活動のイメージは無くなる。
- 「現在の市民の諸活動を確認し」で良いか。

(一同了承)

(8～9 ページ目 読み上げ)

- ここの「市民活動」も「市民の諸活動」に統一した方がいい。
- 補足の4行目「行政の推奨する」はいらぬのではないか。

(一同了承)

- (3) ①「相談窓口体制を拡充する」のところに「整備」も入れたほうが良いのではないか。
- (3) タイトルが「整備の確立」で少しおかしいので、「整備の」を削除する。  
①について、今すでに相談体制はあるので、それを発展させるという意味では「拡充」だけで通じると思う。

(10 ページ目 読み上げ)

- 補足の6～7行目「本市にも既存の市民大学的な組織、あるいは類似に組織が存在するのであれば」と仮定になっている。
- ➔ 市民企画講座とって、市民が得意分野の講座を企画するというものがある。
- 単位制の100単位をイメージしているが、新しい発想で「市民大学」を作ってはどうかという意味である。実際にそういう目的で設備されたとことはあるが、今はもう休眠状態だと聞いたので、あまり直接的に批判はできないので、そういう表現にした。
- 市民大学はコミュニティーカレッジとっているところもある。呼び方は「府中大学」でも良いと思う。
- もう少し積極的に表現するのであれば、「大学設置準備委員会」を立ち上げるところも書かなければならない。
- おそらく「府中カレッジ」にすると全体にかかってくるので、悠学の会もその一部になる可能性がある。
- 市民大学というのは、きちんとやっているところもあれば、そうでないところも

ある。この前、市民大学の学長が何人か集まって討論会をした時があったが、皆さん苦勞されているようだ。せっかく作ったのだから、100単位をもう少しきちんとした方が良い。

- 100単位はここに含まれるので新しい何かを作り上げることも必要ではないか。
- 100単位をきちんとしたほうが手っ取り早い。色々な方が100単位を取っている。
- そうしていくのは、これから行政との協働になると思う。
- そうだと思うが、それに入れるということは、ある意味では認知しているので、その中で色々な内容を考えていけばいいと思う。過去に有名無実になっているところがあるが、本当にそれでいいのか。
- 習得した方たちの活用はもう少し考えていかなければならない。
- そこが曖昧になっているので、問題だと思う。
- コミュニティーカレッジにはたくさん日本人が留学して英語を勉強する。英語をある程度勉強したら、普通の大学に入れたり、専門学校で3年生に編入できる。今は短大と同じようになって編入できる資格がもらえる。長期的に見れば、コミュニティーカレッジもそうになっていくと思う。そのイントロのように考えておけば良いと思う。

(11 ページ目 読み上げ)

- 2行目「また充実した人生のために～」を「また人生を充実させるために～」、4行目「社会的な評価につながって」を「社会的な評価につながれば」、13行目「きっかけ作りは行政の姿勢である。」を「きっかけ作りは行政が担ってほしい。」、その続きの「最初の第一歩を行政が形作り、」は削除、下から8行目「市民との協働を標榜しながら」を「市民との協働を標榜するのであれば～設定しなければならない。」、「掛け声だけの～終わるであろう。」は削除。
- 生涯学習の定義とは何か。
- 「いつでも、どこでも、誰でも隔たり無く学習できること」
- 子どもも対象になるのか。
- はい。
- そのことをはっきりしておかないと、16歳以上と決めているところがたくさんある。高校生は生涯学習の対象になる。
- 学校教育と生涯学習を対比させればそうなる。

- ただ、そこをはっきり決めておかないと、たとえば小中学生がだめだという話しになってしまう。
- もっと大きな意味で、生涯学習というのは、生まれた時から墓場までというように言われている。
- その辺のことをはっきり決めておいた方がよい。色々な人から見れば、学校教育がある内は生涯学習は関係ないとなってしまう。小中学生の行き場所がないという問題になっている。そういうことを言わないとまずいと思う。
- どこにどう入れたら良いか。
- 最初に「生涯学習とは」と入れたら良いと思う。
- まとめに関して会長と小委員会で書かせていただいて、それを皆さんに再度確認していただきたいと思う。また、表題が必要になるので次回の審議会までに考えてきていただければと思う。

## 7 その他

### (1) 次回の審議会について

第8回：平成25年3月4日（月）午後2時  
生涯学習センター 1階会議室